第 40 回（2021 年 3 月期）インフォメーション・ミーティング　質疑応答

Q．貸出金利息が 21/3 期に増加に転じたが、利回り低下が継続する一方で、10%という貸出金平残の高い伸びが貸出金利息反転の大きな要因だろうと考える。こうした傾向は今後も継続できるのか？

Ａ．資料 10 ページ記載の通り、22/3 期の貸出金利息は前期比 8 億円の増加予想としており、貸出金利息は今後も増加を見込んでおります。

貸出金残高に関しましては、コンサルティング営業の継続のもと、メニューの充実や取引先へのハンズオン支援など、各種資金ニーズへの対応を強化することで、これまでと同様に増加を見込んでおります。

また、静岡銀行さまとの協働によるストラクチャードファイナンスやシンジケートローンなども、新たな資金供給の手段を使った取組みとして積極的に取り組んでいく方針であります。

コンサルティング営業ということで申しますと、補助金を活用した支援など、様々な方向で取り組んでおります。補助金については、サプライチェーン補助金や事業再構築補助金に積極的に取り組み、数多くの申請をお客さまとともに行っております。

こうしたことが、貸出金の増加にも繋がっていくと考えております。

Q．北國銀行が基幹システムのクラウド化に進んだが、同じ BankVision 行である山梨中央銀行もクラウド化を検討しているのか？

Ａ．私どもは基幹システムの更改を 2023 年に控えており、北國銀行さまがクラウド化に取り組んだことを非常に高い関心を持って見ております。

私どももクラウド化に関しましては早くから検討を進めてまいりまして、人材育成も図っております。クラウドに関する知見を高めるために、システムベンダーに行員を派遣して教育を受けさせる取組みを既に開始しておりまして、戻ってきた 1 名が行内システムのクラウド化の実践に取り組んでおります。また、新たに 1 名を派遣しております。そうした教育を含めてクラウド化について十分に検討してまいりたいと考えております。

Q．21/3 期の役務取引等利益は下半期が非常に好調だったと思うが、それにも関わらず、22/3 期が横這い予想なのはなぜか？

Ａ．前下半期に非常に伸びたのは、金融商品の販売が順調であったため、また、法人役務も非常に成果が上がったためであります。金融商品については引き続き好調を持続させたいと考えております。一方、法人役務につきましては、資料 26 ページのグラフにありますようにこれまで倍々で伸ばしてまいりました。その中で特にストラクチャードファイナンス関係の役務収益が非常に伸びております。この分野でも当行はお客さまに一生懸命に寄り添った対応を行っておりますが、多くは大型

案件であり、そうした大型案件が毎期コンスタントに発生するかが見込めないため、慎重な見方をしております。また、今後、振込手数料の減少というマイナス要因も想定されるため、慎重に見ざるを得ないと考えております。

Q．「静岡・山梨アライアンス」について、お客さま（個人・法人）の反応はいかがか？
また、静岡銀行とのシステム共同化はオプションとしてあるのか？

Ａ．個人のお客さまからは、静銀ティーエム証券山梨本店のオープンもあり、非常に良い反応を示していただいております。また、法人のお客さまからは、中部横断自動車道の静岡側全線開通を控えていることもあり、静岡銀行さまとの連携の中での期待が大きくなっております。反応は上々と捉えております。

システム共同化についてですが、当行の基幹システムは 2023 年に更改予定であり、既に具体的な取組みを進めているため、基幹システムについてすぐに共同化を進めるようなことは想定しておりません。サブシステムのうち共同化に取り組めるものについては一緒にやっていこうということで、検討を進めているところでございます。

Q．政策保有株式の簿価は 181 億円とのことであるが、時価はどの程度か？また、三井住友トラスト・ホールディングスが政策保有株式をゼロにするとの方針を出したが、これに対する頭取の見方は？

Ａ．21/3 期末の時価は 536 億円で、含み益は 355 億円ございます。なお、簿価配当利回りは 4%近くとなっているため収益面へのプラスはありますが、大きな意味での流れ・今後の方向とすれば政策保有株式の削減に努めていきたいと思っております。

「ゼロにするとの方針」につきましては十分に検討し、できるだけ優先順位をしっかりと定めて、政策保有株式の圧縮を今後もしっかりと進めていきたいと考えております。

以　上